

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

なごや  
ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 ☎763-5110  
会長 秋山 茂則  
幹事 和田 正敏  
会報委員長 佐野 寛

No. 21

自分を越えた眼を

LOOK BEYOND YOURSELF

1991~92年度 RI会長 ラジェンドラ・K・サブー

第459回例会 平成3年12月3日(火) 晴

◇ “君が代”

◇ “それでこそロータリー”

◇ 出席報告

会 員 66(64)名 出席 47名  
出席率 73.44%  
前 回 11月26日 (修正出席率) 100%

◇ ビジター紹介 7名

◇ ニコボックス

秋山 茂則君 今日の笑顔よろしく。  
今井 浩壺君 12月9日(月)に東海銀行一社出張所を開設することとなりました。どうぞよろしく。  
西尾 正巳君 ホームクラブ久しぶりです。  
和田 正敏君 社会奉仕の吉田さん、がんばって下さい。  
吉田 節美君 年末助け合い募金にご協力お願いします。  
木全 昭二君、北野寿三郎君、宮尾 紘司君 誕生日祝い。  
林 淳三君、西村 禎二君 夫人誕生日祝い。  
上野 保君 誕生日祝い。夫人誕生日祝い。  
足立 一成君 結婚記念日祝い。

◇ 和田幹事報告

1. 本日例会終了後、年次総会を開催致しますので、会員の方はそのままお残り下さい。
2. 次回例会は年末家族懇親会で12/12(木)ホテルナゴヤキャッスルにて行います。12/10(火)の例会はございませんのでお間違いないようお願いします。
3. ロータリーの友12月号が来て居りますので、お帰りにお持ち下さい。

◇ 秋山会長挨拶

開戦50年に想う

昭和16年12月8日、日本が真珠湾の奇襲攻

撃を敢行した日です。それから50年目が平成3年12月8日にあたるわけです。ハワイではこの日に真珠湾50周年を記念した式典その他の行事が予定されております。それに臨むブッシュ大統領は「我々は戦争の傷をいやし、戦争の犠牲者への正しい認識と同情を表明する努力を続けるべきだ」と語っております。「わたしと戦争」(CBC編)という本にその犠牲者の姿が生々しく語られておりますので紹介します。青島(中国)で軍属として働いていた大久保さんは、ある日下士官が「面白いものを見せてやるから来い」と云うもんだから従って行きました。そうしたら、郊外の畑の中に大きな穴を掘って、その前に捕虜が後手に縛られ5~6人炎天下に座らされておりました。これはどうするのかなと思って見といたら、指揮官の命令で刀で皆打ち首をやった訳です。もう一件は、スパイをやはり後手に縛って道に寝かしまして、口を開けさせて水道の水をどンドン流し込んで、いつまでも流し込んで、腹が太鼓みたいに膨れてしまう訳です。そうになったら腹を押えて水を吐かせて、また水を入れる訳です。これは本当に生地獄だと思えますね。と語っております。敗色濃く、食物など全く無くなったガダルカナル島で命の綱であったヤシ蟹も蟪蛙も蛇も草の根さえ取りつくしたある日、僅か10個足らずの乾パンを隠し持っていたため、日本兵が日本兵を殺すという出来事があった。そんなバカな事がと殆どどの人が言うのだろうが、実際あったこと。軍縮も平和へのアプローチの方法でもありますが、弾を撃ち合ったり、爆弾を落とすことだけが戦争犠牲者を生み出すものではないことを、この本を読んでしみじみ思った次第です。戦争の被害は地球上の何処にも及ぶものです。

◇講演

“ロータリー雑感”

会員 菅原 宣彦君



初代水野会長のご指導のもと、この千種ロータリークラブが創設され、早いもので来年は10周年を迎えようとしています。緊張しながら手探りでチャーターナイトの準備をしたあの頃が懐かしく思い出されます。初代松居幹事のご好意により松楓閣で大変お世話になり、成田さん、林さん、石田さんなどと遅くまで準備に時間をかけました。個性あふれる歴代の会長をはじめ、役員の方々の努力の中に千種ロータリーの今日があると思います。

私は初代の親睦委員長をつとめさせていただき、チャーターナイトを全会員のご協力の中に、そして初めて合同クリスマス会を東ロータリークラブの親睦委員会のみなさんのご協力の中に楽しく終えることができました。

私は大学卒業以来21年間、母校の東邦高校の教師をつとめ、経済界への転身は昭和55年と日が浅く、JCを経験することもできませんでした。

東邦高校を辞した後、東邦学園の下出理事長の奨めでロータリー入会を考えました。下出先生がロータリー入会について水野創立会長に相談され、当時会長の所属しておられた東ロータリーがよいとのことでしたが、水野会長から「しばらく待つことができますか、できるなら新しいクラブの創立を準備しているのでチャーターメンバーとしてそのクラブに入られたらいかがですか」と言われ、今日のご縁をもちました。

千種クラブは知的で他に誇り得るクラブです。素敵な友にめぐり逢えました。仕事の関係で他のクラブにメイクアップに出掛けることもできました。世界大会、アジア大会をはじめ、アメリカだけでも15クラブ以上のバナーを持ち帰ったと思います。姉妹クラブの提携も懐かしい思い出のひとつです。特に思い出深いクラブは12名のメンバーしかいなかったグランドキャニオンのクラブ、国内では食事代1,200円、しかも予約制という北海道、富

良野のクラブなどが心に残ります。

10周年記念を目指し、歴代の会長、幹事さんを中心に準備がすすめられていることを大変嬉しく思います。仕事の関係とはいえ、ホームクラブの出席の悪さを気にしている昨今です。チャーターメンバーの一人として、これからもクラブを、仲間を、例会を大切にしていきたいと考えています。

雑誌の窓

地球のために何かをしたい！

どちらかと言えば本を読むと言う習慣から遠ざかっている毎日で、朝の新聞に目を通すのが精一杯の毎日が続いている今日この頃です。

「ロータリーの友」もどうしてもバラバラと頁を捲るくらいになってしまいがちなのですが、11月号の中にあったグラビアの「地球のために何かをしたい！」が目にとまりました。

地球のためにと言うのは大袈裟ですが、これからの時代を生きていく子供達、具体的には私の前で「じいちゃん！」と呼び掛けている孫の時代のことをふと考えてみたのです。

と言うのも、私の生きてきた時代は辛い事も一杯ありましたが、おかげさまで満足のいく幸せをつかむ事ができました。日本人のほとんどが中流以上の生活をしていると言う自負を持っている時代ですが、その為失われたものについてふと考えてしまうわけです。

便利になればなるほど忘れてしまう自然の素晴らしさについて、私は孫に伝える事が出来ないのではないかと思うのです。

地球のためにと言うの大袈裟すぎて身近な感覚になりませんが、孫の時代と言うことに置き換えますととても不安になってしまいます。

そう言えば新聞の三面記事は年の瀬を控えて暗いニュースが増えていますし、自分が幸せな分だけ、明日に心配が大きくなり、無邪気に笑っている孫の時代の事について考えさせられるのです。

もちろん心配しているだけではどうしようもありませんがロータリーのメンバーの皆様方と一緒にこういった活動についても手を携えて一緒に注力して行こうと、考えさせられ、決意させられたグラビア写真についてお話をさせていただきました。

担当 足立 一成君

◇次回例会(12月12日)

年末会員・家族懇親会

ホテルナゴヤキャッスルにてP.M.6:00より

◇次々回例会(12月17日)

講演 “暴力団の現状と対策”

千種警察署署長

太田 豊實氏

(紹介 吉田君)